

## 試験研究成果普及情報

部門	資源管理・増養殖	対象	研究
課題名：房総周辺海域に來遊するカタクチイワシの年齢と発生時期の推定			
<p>[要約]</p> <p>カタクチイワシの脊椎骨数を周年調べた結果、10～11月の漁獲物は比較的高水温で発生した単純な由来の群れである。0歳魚で構成されるこの群は、耳石日輪解析でふ化日を推定したところ、6～7月生まれが主体である。</p>			
キーワード カタクチイワシ、発生時期、脊椎骨数、耳石日齢、ふ化日			
<p>実施機関名 主 査 水産総合研究センター 資源研究室</p> <p>実施期間 2011年度～2015年度</p>			

## [目的及び背景]

カタクチイワシ太平洋系群は、本県まき網・定置網漁業の主要対象種として周年漁獲されている。現在、本系群の資源量減少にともなって、沖合を回遊する大型魚の割合が減少するなど、漁獲物の性状にも変化が生じてきている。精度の高い漁況予測を行うためには、まず現在どのような魚群が来遊しているか知る必要がある。このため本研究では周年にわたって発生時の水温を反映するといわれている脊椎骨数を調べ、魚群の由来を推定した。また、由来が比較的単純で、かつ高価で漁業者の関心も強い10月以降の0歳魚について、耳石に形成される日輪を計数し、ふ化日を推定した。

## [成果内容]

- 1 10～11月に主体となる0歳魚は、脊椎骨数が比較的少なく、ばらつきも少ないことから、比較的高水温域で発生した群であり、由来は単純である（図1）。
- 2 1・2歳魚は脊椎骨数が比較的多くばらつきも大きいことから、多様な水温帯で発生した群で構成されており、発生時期あるいは海域が多様である（図1）。
- 3 10～11月に漁獲された0歳魚は、各年とも6～7月にふ化したものが全体の81～96%を占めており、秋季に來遊する0歳魚は6～7月生まれが主体であることが明らかになった（図2）。
- 4 以上から、特に10～11月の0歳魚について、漁獲物の性状に関する情報（ふ化日、発生時水温）が得られた。今後漁況予測の精度向上により、効率的な漁獲や加工原料の安定供給が期待できる。

[留意事項] 特になし

[普及対象地域] 県内全域

[行政上の措置] 特になし

[普及状況] 特になし

[成果の概要]

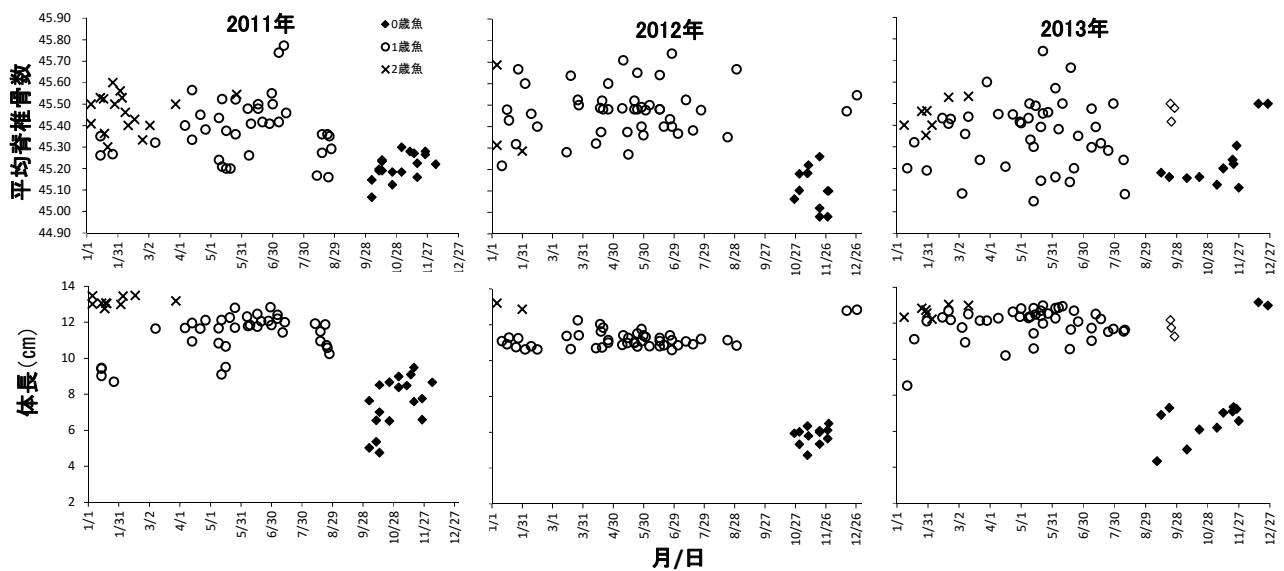


図1 房総周辺海域で漁獲されたカタクチイワシの年齢別の平均脊椎骨数（上），平均体長（下）の標本別推移。

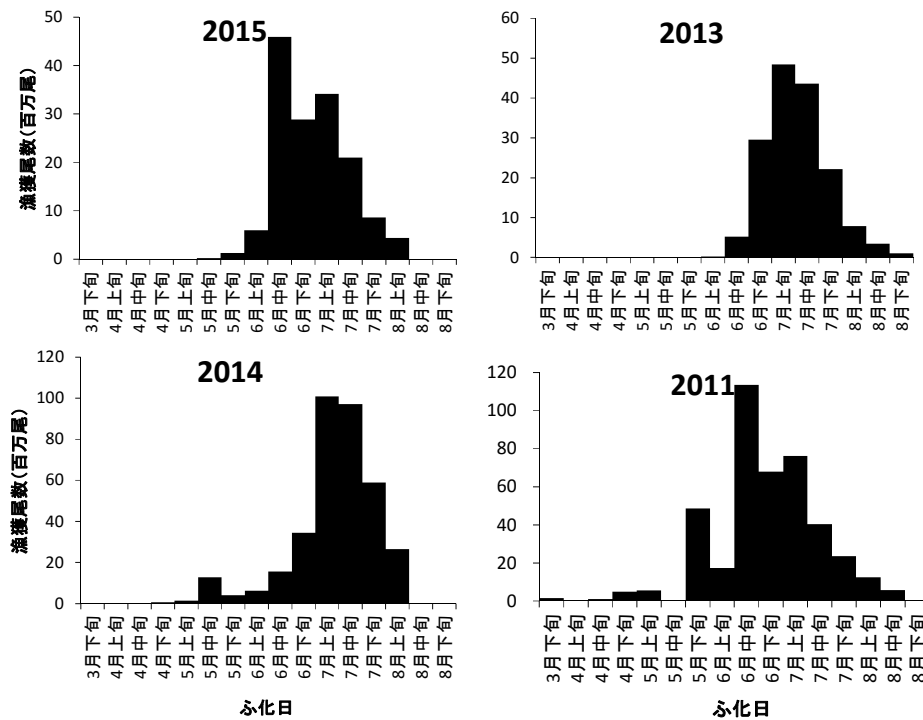


図2 10月～11月に漁獲された0歳魚のふ化旬組成。

[発表及び関連文献]

長谷川淳（2015）房総周辺海域で漁獲されるカタクチイワシの加入パターン，黒潮の資源海洋研究 第16号，43-46

[その他]

特になし